

オガサワラノスリを数え続ける

— 極少個体群の草の根モニタリング —

千葉夕佳・千葉勇人（小笠原村在住）

2012年度のご支援で、研究が進んでいます。

2013年度も引き続き、研究支援を申請いたします。

中型猛禽類ノスリの小笠原諸島固有亜種、オガサワラノスリは、生息地が非常に限られているために200個体に満たない極小個体群です。全体の75%程度が父島と母島に生息しているとみられます。有人島の両島では、世界自然遺産登録による島民生活と観光の拡大や、ノネコ・ノヤギ・外来樹木の駆除により、ノスリの生息環境が変化しています。無人島では、在来植物や海鳥を食害するネズミ類が駆除されています。ネズミ類はオガサワラノスリの主要な餌であり、ネズミ類が駆除された島では、繁殖が成功していません。

わたしたちは、オガサワラノスリ保全のための研究として、2012年、父島での繁殖モニタリングとつがい分布図の作成、ネズミ類駆除域（兄島・東島・南島）を対象とした調査、オガサワラノスリ個体群存続可能性分析を行っています。

2012年度中途報告

① 父島でのモニタリング

つがい分布： 全26つがいを数えた（微減、Suzuki & Kato 2000）。今後データを補充し、テリトリー境界を描く。羽色によって個体識別したつがいの消長は、分析途中。

繁殖成功率： 成功10つがい、失敗16つがい（右図）。11羽の巣立ち雛を数えた。成功率38%は、平年並みと評価でき（Chiba & Suzuki 2011）、2012年の繁殖成功率への明らかな観光客増加の影響は、見られなかった。



② ネズミ類根絶域でのノスリ分布・生態調査（東島・南島も追加）

兄島： 1回の上陸調査（予備調査）を実施。*兄島では、ネズミ類根絶の失敗が判明し、2012年研究支援申請時と状況が異なっているが、調査は継続する。

東島： 1回の上陸調査を実施。繁殖は失敗し、つがいの消滅も疑われる。

南島： 父島からの遠望調査を5回行い、利用が続いていることを確認中。

③ 個体群存続可能性分析

ネズミ類根絶地域で繁殖率が0となるモデルを作り、根絶範囲が異なるシナリオごとに、オガサワラノスリの今後の個体群存続可能性を分析した。分析結果は、関連公共事業の検討委員会等で、議論の材料として用いられた。論文準備中。

2013 年度計画

まだまだ、オガサワラノスリを数え続ける。

①父島繁殖モニタリング（2008～継続）

父島は、小笠原諸島最大の島（24km²）で、島民生活・行政・観光の中心地である。オガサワラノスリの生息数も最大で、ネズミ類根絶が行われないこともあり、新規個体の供給源となることが期待される。生息環境は刻一刻と変化する中でのモニタリングは、最重要繁殖地の状況変化を測るために必須であり、2013 年度も行う。

②オガサワラノスリの若鳥生活

近年、猛禽類のつがい形成前の若鳥（フローター）の生活が、明らかになってきている。オガサワラノスリでも、「つがいの地位を得るまでに、若鳥はどんな生活をしているのか？」を知るためのデータが、少しずつ蓄積している。2013 年度は、蓄積したデータ（写真と軌跡）の分析を行う。若鳥の個体数、年齢比などから、個体群存続可能性分析の精度を高めることも目標とする。



③その他（継続）

- ・ 東島の上陸繁殖調査を継続。
- ・ 父島つがいの個体識別を継続。
- ・ 個体群存続可能性分析を更新。



- 参考文献 Suzuki T. & Y. Kato (2000) Abundance of the Ogasawara Buzzard on Chichijima, the Pacific ocean. J. Raptor Res. 34: 241-243.
- Chiba Y. & T. Suzuki (2011) Breeding biology of the Ogasawara Buzzard endemic to the Ogasawara (Bonin) Islands. Ornithol. Science 10: 87-97.